

～ 第 1 四半期決算のポイント ～

(個人株主・投資家の皆さまへ)

平成 22 年 8 月 11 日

第一生命保険株式会社の 2011 年 3 月期第 1 四半期連結主要業績は以下のようになりました。

(億円)					＜参考＞	
	10/3期1Q	11/3期1Q	前年同期比		11/3期2Q 累計(予想)	進捗率
経常収益	13,514	11,834	△1,679	△12%	21,030	56%
第一生命単体	11,230	10,798	△432	△4%	19,310	56%
経常利益	716	508	△208	△29%	740	69%
第一生命単体	716	655	△60	△8%	810	81%
四半期純利益 ⁽¹⁾⁽²⁾	296	103	△192	△65%	110	95%
第一生命単体	297	238	△58	△20%	170	140%

- (1) 前年同期との比較を可能にするため、10/3 期第 1 四半期については、11/3 期第 1 四半期と同様に契約者配当準備金繰入額を計上したと仮定し、10/3 期に計上した契約者配当引当金繰入額 925 億円に 1/4 を乗じた金額を四半期純剰余より控除しています。
- (2) 当社は 10/3 期第 1 四半期において相互会社でありましたが、四半期純剰余に代えて四半期純利益と記載しております。

■ 中核事業である保険商品の販売が好調

主力商品の販売が好調だったことから、第一生命単体の新契約高は前年同期比で 13.4%増加いたしました。また、既存契約の解約失効高は同 35.0%減少するなど、中核事業の営業指標は大きく改善しました。

■ 厳しい金融環境の下、資産運用も健闘

金融環境は想定を上回る厳しさでしたが、金融派生商品によるヘッジ効果等により、第一生命単体の一般勘定資産運用収支も改善しました。

■ 減益ながらも上半期業績予想に対して高い進捗率を達成

第一生命単体における昨年度と今年度の上半期・下半期の利益バランスの違いや子会社である第一フロンティア生命の業績が金融環境の影響を大きく受けたことなどから前年同期比では減益となりました。しかし、第 1 四半期の連結純利益は上半期業績予想に対して 95%の進捗率、第一生命単体では同 140%の進捗率を達成しました。

補足資料 ～より詳しく決算をご理解いただくために～

上半期・下半期の利益バランス

- 第1四半期は連結経常利益で前年同期比 29%の減益となりましたが、この背景には昨年度の利益と今年度の利益予想の上半期・下半期のバランスの違いがあります。

連結経常利益	(億円)		
	上半期	下半期	通期
10/3期実績	1,346	536	1,882
11/3期予想(5月公表)	740	1,210	1,950

- 昨年度は、株式市場の回復等もあり上半期にキャピタルゲインが集中した一方で、下半期には円高の進行や株式会社化コストの発生等で利益が抑えられました。逆に今年度は、株式割当に伴う送金コスト等が第1四半期に集中することや有価証券売却のタイミング等により上半期よりも下半期の利益が大きいと予想しています。このため、第1四半期の業績は好調でしたが、前年同期と比較すると減益になりました。
- なお、足元の金融環境は不透明感が強く、第1四半期の好調な業績によって上半期、通期の業績が会社予想を上回ることをお約束するものではありませんので、ご理解いただきますようお願いいたします。

第一フロンティア生命の業績

- 第一フロンティア生命の第1四半期の純損失は140億円と、5月14日に発表しました第一フロンティア生命の通期業績見通し(当期純損失160億円)に近い損失額を計上しました。第一フロンティア生命が販売した変額年金保険の最低保証リスク(※注1)について、6月末の金融環境を受けて責任準備金の繰入を行ったことが主な要因です。今後の金融環境の変化にもよりますが、現時点で通期の損益が確定したことを意味するものではありません。
- 第1四半期における、臨時収益やキャピタル損益を除く、第一フロンティア生命の保険本業における収益を示す基礎利益は、上に挙げました責任準備金の繰入等の影響を除くと、前年同期比で約53億円改善し、黒字化しております。

(百万円)

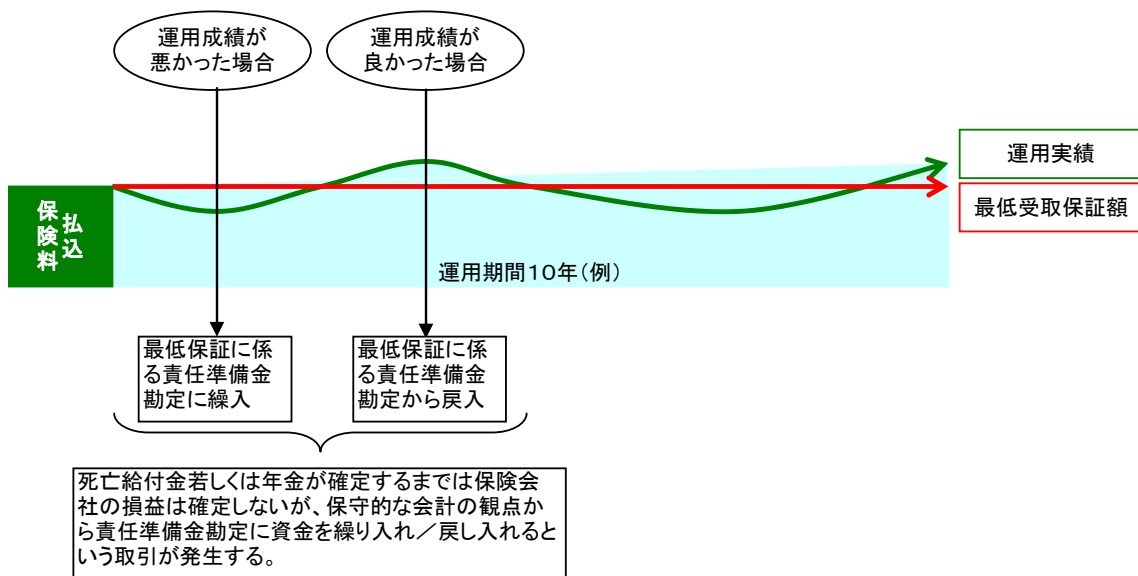
	10/3期	11/3期	増減額
	第1四半期	第1四半期	
経常利益(△は損失)	113	△ 14,349	△ 14,463
(除)臨時収益(△は費用)	△ 12,693	△ 441	12,251
(除)キャピタル収益(△は費用)	△ 3,340	12,742	16,082
基礎利益(△損失)	16,146	△ 26,650	△ 42,797
(除)最低保証に係る責任準備金の繰入(△は戻入)	△ 17,009	31,091	48,100
基礎利益(調整後、△は損失)	△ 862	4,440	5,302

- ・ 第一フロンティア生命では、ヘッジ(注2)の強化等を通じて今後も最低保証リスクの低減に努めてまいります。

<用語説明>

(注1) 変額年金保険の最低保証リスクとは？

- ・ 最低保証付変額年金保険は、運用成績が悪化した場合、最低保証を提供するのに必要な資金を責任準備金として積み立て、反対に、運用成績が改善すれば資金は戻し入れます(下図参照)。積み立ては費用の増加、戻し入れは費用の減少として損益計算書に影響を与えますが、当該年金商品が満期になるまでは、損益が確定するものではありません。



(注2) ヘッジとは？

- ・ 金融市場が想定とは異なる方向に変化し、運用成績に影響を与えるリスクを、デリバティブ取引等を利用して回避もしくは低減することをヘッジといいます。

免責事項

本資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社（以下「第一生命」または「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。